

サウジアラビア・イタリア・フランス出張について

平成 26 年 5 月 8 日

5 月 3 日(土)から 8 日(木)の日程でサウジアラビア、イタリア、フランスに出張し、日サウジビジネスフォーラム、G7 エネルギー大臣会合、OECD 閣僚理事会、WTO 非公式閣僚会合に出席しました。

1. サウジアラビア(5 月 3 日～5 日)

(1) 日サウジビジネスフォーラム

日本・サウジアラビア・ビジネスフォーラムにおいてオープニングスピーチを行い、両国が経済関係をさらに深化させ、かけがえのないパートナーとしてともに発展していく期待を述べました。フォーラムには、日本から同行した経済ミッション(37 社)のメンバーを含め日本側 130 名とサウジアラビア側 150 名の合計 280 名が参加し、両国の経済関係のさらなる発展に向けた、ビジネス界の期待を強く感じました。

(2) 閣僚等とのバイ会談

① アブドルアジズ石油鉱物資源副大臣

サルマン皇太子のご子息であり、石油鉱物資源省の副大臣であるアブドルアジズ殿下と会談しました。昨年もお目にかかりましたが、大変、親日的で、国際的なエネルギー情勢について意見交換を行うとともに、エネルギーのみならず様々な分野における両国の協力を更に発展させていくことを確認しました。また、サウジアラビアが熱心に取り組もうとしている省エネルギー分野における協力の拡大についても意見交換を行いました。

② タウフィーク商工大臣

商工業政策を所管し、日サウジアラビア産業協力タスクフォースの担当大臣でもあるタウフィーク商工大臣とサウジアラビアの輸出振興における協力をさらに強化することで合意しました。会談後、タスクフォースの成果の一つである日立製作所による現地合弁会社設立の合意(これでタスクフォース関連で 8 社目)や中小企業の能力向上のための覚書(MOU)への署名が行われました。

③ ジャーセル経済企画大臣

マクロ経済政策を担当するジャーセル経済企画大臣と、サウジアラビア政府が策定中の次期「中・長期計画」に関して経済産業省が協力を行う枠組みについて合意し、署名を行いました。その後、同行の企業も交えて昼食(といっても午後 2 時から)をとりながら会談し、ウクライナ情勢の影響など、国際的なエネルギー動向につき、意見交換を行うとともに、サウジアラビアの産業人材育成や中小企業育成などでの協力に関する議論を行いました。



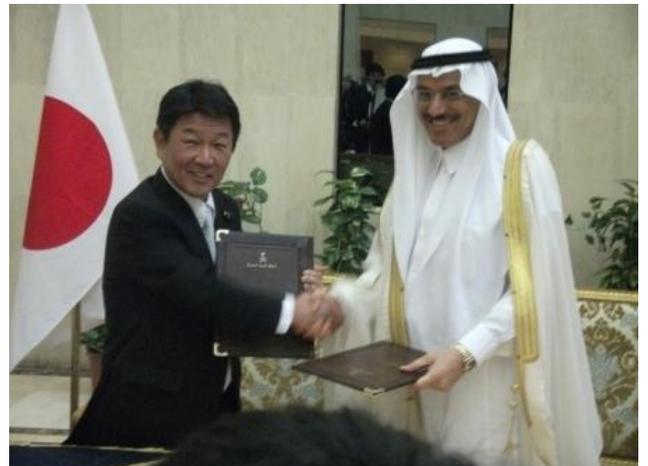
ビジネスフォーラムでのスピーチ



アブドルアジズ石油鉱物副大臣とのバイ会談



タウフィーク商工大臣とのバイ会談



ジャーセル経済企画大臣との署名式

2. イタリア(5~6日)

(1) G7 エネルギー大臣会合

初開催となる G7 エネルギー大臣会合に出席し、ウクライナ情勢等を踏まえ、エネルギー安全保障を強化する方策について 2 日間に亘り議論を行いました。G7 が一致して共同声明を採択し、成功裏に終了できました。

また、この結果を 6 月 4~5 日の G7 首脳会談にしっかり反映させていくことで一致しました。

共同声明のポイントは以下のとおりです。

- i. エネルギーは、政治的な威圧や安全保障上の脅威として利用されてはならず、エネルギーに係る対立は、対話を通じて解決されるべき。

- ii. 大胆なエネルギー安全保障の向上のための改革を推進していく。また、
①柔軟、透明、競争的なエネルギー市場の構築、②エネルギー源の多様化、供給源の多角化、国産エネルギー源の開発及び省エネルギーの促進などの中核的原則に合意。
- iii. ウクライナに対しては、国産の炭化水素資源と再生可能エネルギーの開発、エネルギー効率の向上に向け支援を実施する。

特に、大臣会合での日本の主張との関係では、ポイントは以下のとおりです。

- i. 「仕向け地条項」の緩和を含む天然ガス市場の柔軟化を促していくことの重要性が共同声明で確認されました。我が国は従来からこのことを主張してきましたが、G7 のレベルで「仕向け地条項」の緩和が合意されたのは初めてのこと。
- ii. エネルギー構成の多様性に関し、化石燃料が引き続き重要な要素であることに加え、ベースロード電源としての原子力などの低炭素技術の利用を促進することを確認。
- iii. ウクライナ支援については、エネルギー効率の向上に向け、各国がさまざまな形での支援を実施することで一致。これを踏まえ、我が国は、産炭国であるウクライナの要請に応え、老朽化した石炭火力の効率改善に向け協力していきます。

今次会合において、合意した原則やアクションを各国協力のもと着実に実施し、また G7 以外の国や地域とも連携し、エネルギー安全保障の強化に向けた協力や議論を世界大で進めていくことを確認しました。

(2) 閣僚とのバイ会談

①リックフォード カナダ天然資源大臣

我が国が LNG の低廉かつ安定的な供給確保に向け供給源の多角化を進めていく上で、カナダは重要な役割を担うとの認識を共有するとともに、カナダからの LNG 輸入が早期に実現するための輸出許可など課題解決に向けた意見交換を行いました。

②ガイディ イタリア経済振興大臣

今回の G7 エネルギー大臣会合の議長であり、会議の議題である世界のエネルギー安全保障の強化に向けた取組や二国間の経済関係について意見交換を行いました。私の古代ローマ、ユリウス・カエサルのガリア戦役と現代のエネルギー安全保障の比較の話にも興味を示してもらいました。

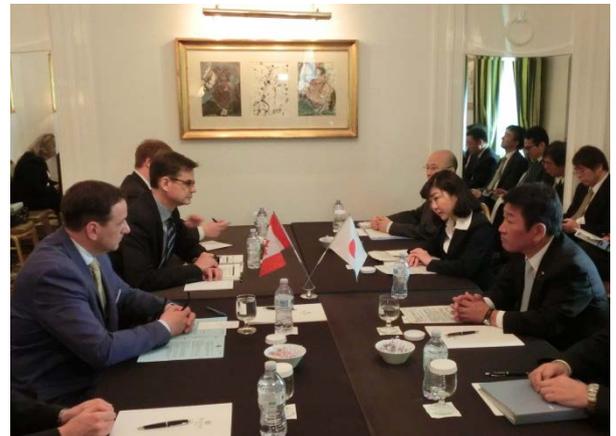
③モニーツ 米国エネルギー省長官

モニーツ長官とは今回で 5 回目の会談。先月のオバマ大統領の訪日を踏まえ、米国からの LNG の供給や原子力協力など、エネルギー安全保障の強化に向けた両国の協力について確認しました。

なお、リックフォード大臣は、川崎宗則選手が所属するトロント・ブルージェイズのファンであり、一方、モニーツ大臣は、上原浩治選手が所属するボストン・レッドソックスの大ファン。両大臣との間では、日本人選手の北米での活躍の話題で盛り上がり、和やかな雰囲気の中で会談が行われました。リックフォード大臣からは、ハーバード大出身の私がどのチームのファンか問われましたが、「国家秘密である。」と回答しました。



G7 エネルギー大臣会合



リックフォード カナダ天然資源大臣との会談



ガイディ イタリア経済振興大臣との会談



モニーツ 米国エネルギー省長官との会談

3. フランス(6日～7日)

(1) OECD 閣僚理事会

本年は日本の OECD 加盟 50 周年であり、日本が閣僚理事会の議長国を務めました。私が議長を務めた貿易セッションでは、今後の貿易投資の自由化について活発な議論(全て英語!)が行われました。

まず、ITA 拡大など有志国の取組や FTA は、多角的貿易体制の強化に貢献することを確認しました。次に、保護主義の抑止のため、新たな保護主義措置をとらないという「スタンスティル約束」、既に執られている保護主義措置を是正する「ロールバックの約束」を再確認しました。また、OECD のサービス貿易制限指標(STRI)が発表され、新興国のサービス市場の閉鎖性などの課題が示されました。最後に、OECD の投資分野での活動の重要性を確認しました。

(2) WTO 非公式閣僚会合

WTO 非公式閣僚会合では、今後の WTO 交渉の進め方について議論しました。日本からは貿易円滑化協定を 7 月末までに採択すべきであること、情報技術協定(ITA)拡大、新サービス貿易協定(TiSA)、環境物品といった交渉が多角的貿易体制強化につながることを主張し、支持がありました。

(3) 閣僚とのバイ会談

① ロブ豪州貿易大臣

ロブ大臣とは、既に大筋合意した日豪 EPA や TPP、APEC のほか、7 月にシドニーで行われる予定の G20 貿易大臣会合等、広く日豪経済関係全般について意見交換を行いました。

② フロマン米国通商代表

フロマン代表とは 7 回目の会談。OECD 貿易セッション、WTO、APEC について意見交換を行いました。ITA 拡大など多角的貿易体制の強化に向け、日米両国の連携を確認しました。

③ デ・ヒュフト欧州委員

デ・ヒュフト欧州委員とは、直前の日 EU 首脳会談を踏まえ、日 EU・EPA について意見交換を行い、交渉の早期妥結の重要性を改めて確認しました。



OECD 閣僚理事会 貿易セッション



WTO 非公式閣僚会合



ロブ豪州貿易大臣との会談



フロマン米国通商代表との会談



デ・ヒュフト欧州委員との会談